

た爲に狂狷した前長等の爲にする逆宣傳であ
りまして、「疑心暗鬼」を生むとは此の事を言ふのでありませ
う。要之に、争議の眞因はそんな路傍にあるのではなくて、樂
器會社の不完全な設備や、職工酷使にあるのであつて、之
等を改めることこそ、要求の全部であります。株主は「割二分
の配當があり、開けば年末賞與を社長は一萬圓を一萬二千圓に
引上げた相であるが、従業員の日給は語にならぬ小額なもので
あります。従つて従業員の生活は悲惨なものです。で不平や、
要求は一杯に満ちて居ますし、殊に天野社長は、憎悪の的とな
つて居ます。従業員は、真赤な嘘であるこ
とは申す迄もありません。

第一の點 評議會は共産主義を主張すると言ふが如きは、
馬鹿の骨頂であつて、經濟的の革命を目的云々等、實に識者が諷
むなら、笑止に價するもので、此の言葉の使ひ方等でも實に馬
馬なものでありませう。評議會の態度は、屢々宣明した通り労働
者の利益のために、社長に如き「西洋の唯物思想の
權化」も云ふべき貪欲な資本家氣質」を戦ふ
ものです。實にこの「資本家氣質」は、従業員の要求を入れず
極端な不誠意を示しながら、其事を糊塗するために「組合が後
にあるから」等と言つてゐるのです。しかも、大きなビラを書
きながら、嘆願書の内容については、具体的に少しも説明する
ことがなく、剩へ「現に争議團員中の多數は従業員の要求が
無理だと云つてゐる」等と流言蜚語を飛ばして、自分の意向を
表示し、「一年二回必ず昇給させること、等を筆頭に随分不合理
な要求があると自分でも思つて居るらしい」等と嘘は堂々と
やります。しかし嘘の宣傳は止めさせよう」と云つたその口の
下から、嘘を吐いて自分の内心の氣持を暴露してゐるのであり
ます。即ち社長は、嘗て職工代表に「要求は諸君の方から云は
なく共、してやつた筈だ。唯組合の力を借りてゐるからだ」と
云つた相ですが、この言葉から、本心は此の要求が聞き度くな
いのだと思ふ事を雄辯に語つてゐるではありませんか。社長
は不誠意極まる、貪欲な資本家氣質の所有
者と云はずして、何と云ひ得ませうか。「會社の思ひ切つた

絶対にいけません」又評議會の諸君に申し上げるの中に「諸
君は暴力で給料の奪取をするのか、脅迫又は暴行或は傷害又は
殺人の行爲によつて此の目的を達するのか、如何ですか」と言
つた會社や社長を見よ！天野社長の息の天野辰夫と
いふ男は東京から暴力團數十名を引率してやつて來ましたが、
「嚴正なる御判断を乞ふ」の大ビラを撒布した五日の午後には
自働車數臺に分乗せしめビラを配布して後車上で短刀をよして
ろからノゾカせる一方大ダンビラの抜き身をふりかざして争議
團切りくづしの演説をはじめたのであります。そして盛んに萬
歳を連呼して騒いだのであります。社長は之を工場からノゾ
いてゐた時であつたさうであります。此等は、武器を持たない
争議團を強迫脅嚇するためのものであり「傷害又は殺人の行爲
によつて其の目的を達せんとする」社長並に會社の手先なので
ありますしかも急づくりの日本主義労働同志會の假事務所を作
つて争議團の側に叩て喧嘩を賣りかけるに至つては唯驚く外は
ありません。こんなゴロッキを一日四回以上の日當を與へて使
つてゐるのださうです。憎むべきは天野一族であ
り排斥すべき毛虫の如き人間とは彼等の事を云
はずして誰れをさう呼ぶことが出来ませうか。かゝる破廉恥
ゴロッキとは争議團は武器こそありませんが無力でも團結の力
によつて市民諸君と共に戦ふ決心であります。
願はくば市民諸君、我々に助力するにその努力を惜まざること
を。事の序に申し上げますれば労働同志會の美名の下に争議
團を應援するのたまたまされて引ばつてこられた純潔な人道の
闘士はかかる詐欺に憤然色をなして歸郷しましたものもある位
でありまして社長並に會社の言ふ所の「鬼」とは此等の暴力團
の輩でなかつたでありませうか。かく觀察しますれば彼のビラ
に書かれた「自分の根性で人の心を村度し易いものですから」
はかの醜き社長の心狀行爲にこそあまりに適確にあてはまるこ
とに驚かされます。彼は名言を吐いた、それと同時に自分自身
の正体が極太郎ではないで鬼であることを、暴露してつたこと
は社長のためには不幸なことでありませう。大江山の鬼は昔女